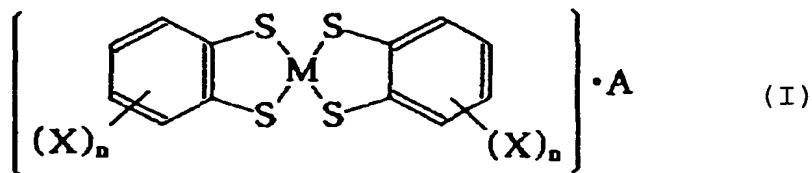


2-1) JP-B-2-4881

[Claim 1] An optical filter having spectral properties close to luminosity, characterized by containing a thermoplastic resin and a benzenedithiol type metal complex of the following formula (I):



wherein X is a hydrogen atom, a chlorine atom, a bromine atom or a methyl group, n is an integer of from 1 to 4, M is a nickel atom, a palladium atom or a platinum atom, and A is a quaternary ammonium, incorporated in the thermoplastic resin.

## ⑫ 特許公報 (B2) 平2-4881

⑬ Int. Cl. 5

G 02 B 5/22  
C 08 K 5/36  
G 02 C 7/10

識別記号

K B R

厅内整理番号

7348-2H  
6770-4J  
7029-2H

⑭ 公告 平成2年(1990)1月30日

発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 視感度に近い分光特性を有する光学フィルター

⑯ 特願 昭56-83004

⑯ 公開 昭57-198413

⑯ 出願 昭56(1981)5月30日

⑯ 昭57(1982)12月6日

⑰ 発明者 笹川 勝好 神奈川県横浜市戸塚区矢部町1541

⑰ 発明者 今井 雅夫 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町4598-6

⑯ 出願人 三井東圧化学株式会社 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号

⑯ 代理人 弁理士 横田 晋

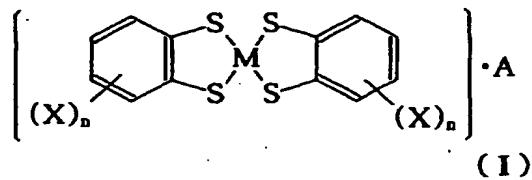
審査官 寺山 啓進

1

2

## ⑰ 特許請求の範囲

1 一般式 (I) で示されるベンゼンジチオール系金属錯体



(式中、Xは水素、塩素、臭素原子またはメチル基を、nは1~4の整数を、Mはニッケル、パラジウム、白金原子を、Aは第4級アンモニウムを表わす)が熱可塑性樹脂に配合されてなることを特徴とする視感度に近い分光特性を有する光学フィルター。

## 発明の詳細な説明

本発明は親親な光学フィルターに関する。さらに詳しくは特殊な近赤外線吸収剤が熱可塑性樹脂に配合されてなる視感度に近い分光特性を有する光学的フィルターに関する。

視感度に近い分光特性を有する光学的フィルターはサングラス、溶接用眼鏡、航空機の窓またはテレビジョンのフィルターに用いられるばかりでなく、近年、フォトダイオードが発光ダイオードなどの光電変換素子の波長感度特性の補償用の光学フィルターとして重要である。この場合、サングラスなどの肉眼保護用の光学フィルターはまぶ

しさや眼球の疲労を防止する目的を満たすため、その特性も人間の視感度に合った分光特性を有する必要がある。また、光電変換素子のうち電子シヤツターや文字読み取り装置に用いられるフォトダイオードは視感度に近い波長感度特性を要求されるため、可視部の領域の光に感應するフォトダイオードの受光面にさらに視感度に近い分光特性を有する光学フィルターを装着せねばならない。

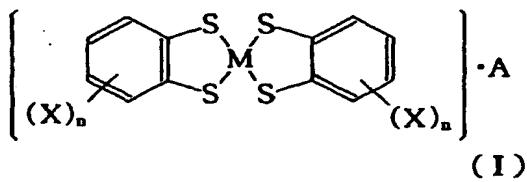
従来、上記した如き視感度に近い分光特性を有した光学フィルターとしては大別して2種のものが知られている。すなわちガラスに金属イオンを混入し、そのイオン吸収を利用するガラスフィルター、および有機色素を配合した樹脂液をガラス板または樹脂板にコーティングしたフィルターが

知られている。しかしながら、前者のガラスフィルターの場合、湿気の高いところで使用すれば、表面が変色してその分光特性が失われる欠点があるため、ガラス表面を保護するため、シリコンや特殊な樹脂の薄膜をコーティングする必要がある

ばかりでなく、種々の寸法のフィルターを作成するためにはガラスを裁断するという困難性を伴うものである。また後者の種々の有機色素を配合した樹脂液をコーティングしたフィルターとしては、たとえばビスジチオール-α-ケトン系化合物の金属錯体などを樹脂液に配合してガラスにコーティングし、光学フィルターとして用いることが提案されている(特公昭46-3452、特公昭50

-23388) が、これらのフィルターはコーティング法により作成するため、製品の規格たとえば一定の厚みまたは所定の波長における一定の光吸収率を得ることが困難である。そこで一定の規格を有する光学フィルターを得るために、これらの金属錯体類を樹脂に配合して圧縮や押出し成型を行えば、金属錯体類の固有する近赤外領域の光吸収能を失うため、その加工は常温付近でのコーティング法に制限される。このため圧縮や押出し成型が可能な適当な有機色素を樹脂に配合してなる視感度に近い分光特性を有する光学フィルターが強く望まれている。このような状況に鑑み、本発明者らは熱可塑性樹脂に配合して圧縮や押出し成型に耐えうる近赤外線吸収剤を詳しく研究した結果、近赤外線吸収剤としてベンゼンジチオール系金属錯体を用いることにより、その近赤外領域および紫外領域の光吸収能を利用でき、かつ熱安定性、加工性および耐候性に優れ、視感度に近い分光特性を有する上記した従来の光学フィルターの欠点を解決した光学フィルターを得ることが可能となることを発見し、本発明に至つた。

すなわち、本発明は一般式(I)で示されるベンゼンジチオール系金属錯体



(式中、Xは水素、塩素、臭素原子またはメチル基を、nは1~4の整数を、Mはニッケル、パラジウム、白金原子を、Aは第4級アンモニウムを表わす)が熱可塑性樹脂に配合されることを特徴とする視感度に近い分光特性を有する光学フィルターを提供する。

本発明に用いるベンゼンジチオール系金属錯体は可視部における光吸収率が極めて小さく紫外部を吸収しかつ近赤外部に有する極大吸収波長のモル比吸光係数が極めて大きいことから、これを用いて作成した光学フィルターは視感度に近い分光特性を有しているばかりでなく、ベンゼンジチオール系金属錯体は熱安定性が良好で吸湿性を有せず、水と接触させても極めて化学的に安定な化合物であり、これを樹脂と配合して通常の圧縮また

は射出成型しても、その固有する極大吸収波長の変化はほとんど起らないことが判つた。この理由としては、ベンゼンジチオール系金属錯体は芳香族炭素原子に互に隣接して結合した硫黄原子により、金属原子が強力にキレート化されているために金属錯体としての化学的安定性のみならず、良好な熱安定性が、得られるものと推定される。

本発明において用いられるベンゼンジチオール系金属錯体類はハリー・ビー・グレイラガジャーナル・オブ・ジ・アメリカン・ケミカル・ソサイエティ (J.A.C.S) 88巻43~50頁および4870~4875頁において開示された方法に準じて、ベンゼンジチオール類と塩化ニッケル、塩化パラジウム、塩化白金とを反応させ、次いでこの反応液に第4級アンモニウムハライドを反応させて得ることができる。ベンゼンジチオール類としては、ベンゼン-1, 2-ジチオール、トルエン-3, 4-ジチオール、キシレン-4, 5-ジチオール、3, 4, 5, 6-テトラメチルベンゼン-1, 2-ジチオール、4-クロロベンゼン-1, 2-ジチオール、4, 5, 6-テトラクロロベンゼン-1, 2-ジチオール、3, 4, 5, 6-テトラクロロベンゼン-1, 2-ジチオールおよび3, 4, 5, 6-テトラグロモベンゼン-1, 2-ジチオールなどが用いられる。第4級アンモニウムハライドとしては、たとえばテトラエチルアンモニウムプロマイド、テトラブチルアンモニウムプロマイド、オクチルトリエチルプロマイド、セチルトリエチルアンモニウム、プロマイド、フェニルトリメチルアンモニウムプロマイドなどが用いられる。

本発明に用いられるベンゼンジチオール系金属錯体の代表的な例としの極大吸収波長のモル比吸光係数を第1表に示す。また本発明に用いられる熱可塑性樹脂としては可視領域および近赤外部の波長領域に大きな光吸収能を有さない樹脂であればいずれも用いることができる。たとえば、ポリエチレンテレフタレートで代表されるポリエステル樹脂、セルロースジアセテート、セルローストリリアセテートなどのセルロースエステル樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレンなどのポリオレフィン樹脂、ポリアクリル酸メチル、ポリメタクリル酸

## 第 1 表

化合物番号	化 合 物 名	( I )式中のA	入 (nm)	$\epsilon$
1	ビス(1,2-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-エチルアンモニウム	N(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>4</sub>	890	13200
2	ビス(1-メチル-3,4-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム	N(n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>	890	16270
3	ビス(1,4-ジメチル-2,3-ジチオフェノレート)ニッケル(II)トリメチルセチルアンモニウム	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub> C <sub>16</sub> H <sub>33</sub>	920	13500
4	ビス(1,2,3,4-テトラメチル-5,6-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム	N(n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>	925	16400
5	ビス(1-クロロ-3,4-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム	N(n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>	895	13960
6	ビス(1,2,3,4-テラクロロ-5,6-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム	N(n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>	885	15700
7	ビス(1-メチル-3,4-ジチオフェノレート)白金(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム	N(n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>	920	23800

メチルなどのポリアクリル樹脂、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデンなどのポリビニル樹脂、ポリカーボネートなどがある。なかでもポリアクリル樹脂およびポリカーボネート樹脂は良好な可視部の光透過性および加工時の寸法安定性から使用するのに望ましい樹脂である。

また本発明におけるベンゼンジチオール系金属錯体類の樹脂に対する配合割合は光学フィルターとして使用する場合の樹脂板の厚さ、所望する光吸光度に合せて選ぶことができるが、長期間の使用の際に、ベンゼンジチオール系金属錯体が樹脂から結晶化する現象を防ぐためから約0.05~5重量%の添加が望ましい。

また本発明における光学フィルターの作成方法としては、とくに限定するものではないが、ベンゼンジチオール系金属錯体を樹脂粉末またはペレットに混合し、溶融して圧縮や押出成型して所望の形状の光学フィルターを作成することができる。

さらに本発明に用いる熱可塑性樹脂にはその物性を改良するため、安定剤、酸化防止剤、可塑剤、滑剤などの添加剤が配合されていても良いが、これらの中にはベンゼンジチオール系金属錯体を分解するものがあるので、その選択に注意を要し、特に金属と強い錯体結合をつくる性質を有するトリアルキルホスファイトなどは使用しない方がよい。

かくして本発明により得られるベンゼンジチオール系金属錯体が熱可塑性樹脂に配合されてなる視感度に近い分光特性を有する光学フィルターは所望の近赤外部の分光特性に合わせてベンゼンジチオール系金属錯体の種類を選択することにより所望の視感度に近い分光特性を有する光学フィルターとして、機能を発揮することが可能である。

以下、本発明を実施例により、詳しく説明するが実施例中に示す部はすべて重量部を示す。

## 実施例 1

ビス(1,2,3,4-テラクロロ-5,6-ジチオフェノレート)ニッケル(II)テトラ-n-ブチルアンモニウム1.5部およびポリメタクリル酸メチル樹脂1000部の混合物をシリンダー温度210°C、射出圧力1300kg/cm<sup>2</sup>で射出成型して1.0mm厚の試験片を得た。得られた試験片は緑色を呈し、島津製作所製のマルチバーパス自記分光光度計を用いて測定した350~1100nmの波長領域の分光特性は第1図曲線2に示すとおりである。この曲線から明らかなように可視部の最大透過率は70%以上であり、400nm以下の紫外外部および800~950nmの近赤外部の透過率は5%以下(吸収極大885nm)であり、第1図曲線1に示した視感度曲線に近い分光特性を有する光学フィルターを得た。

## 実施例 2

ビス(1-メチル-3,4-ジチオフェノレー

ト) ニッケル (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウム0.1部をポリメタクリル酸メチル樹脂100部の混合物をプレス温度150°C、プレス圧力280kg/cm<sup>2</sup>で圧縮成型して1.0mm厚の試験片を得た。得られた試験片は淡緑色を呈し、350~1100nmの波長領域のうち可視部の最大透過率は85%以上であり、400nm以下および800~950nmの透過率は15%以下（吸収極大890nm）である、視感度に近い分光特性を有する光学フィルターを得た。

### 実施例 3

実施例2のビス（1-メチル-3, 4-ジチオフェノレート）ニッケル (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウムの代りにビス（1-メチル-3, 4-ジチオフェノレート）白金 (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウムを用いる以外実施例2と同様に行い、1.0mm厚の試験片を得た。得られた試験片は緑色を呈し、350~1200nmの波長領域のうち可視部の最大透過率は80%以上であり、400nm以下および800~950nmの透過率は10%以下である、視感度に近い分光特性を有する光学フィルターを得た。

### 比較例 1

実施例2のビス（1-メチル-3, 4-ジチオフェノレート）ニッケル (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウムの代りにビス（シス-1, 2-ビス（*p*-メトキシフェニル）エチレン-1, 2-ジチオレート）ニッケル（最大吸収波長920nm）を用いる以外実施例2と同様に行つたが、得られた試験片は無色であり、近赤外部の光吸収能を全く失っていた。

### 比較例 2

10 実施例2のビス（1-メチル-3, 4-ジチオフェノレート）ニッケル (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウムの代りにビス（1-メルカプト酢酸-2-ナフチレート）ニッケル (II) テトラ-*n*-ブチルアンモニウム（最大吸収波長1100nm）を用いる以外実施例2と同様に行つたが、得られた試験片は無色であり、近赤外部の光吸収能を全く失っていた。

### 図面の簡単な説明

第1図は視感度曲線（曲線1）および実施例1の記載に従つて作成した光学フィルターの分光特性（曲線2）を示す。

第1図

